



# たけだメディカルニュース

## 経営理念

- 思いやりの心

## 特集号

平成25年9月1日 発行

## 基本方針

- ブリッジ・ザ・ギャップス
- 患者さんの権利の尊重
- 地球にやさしい環境づくり
- 信頼の医療に向けて

## 環境方針

- ①省資源・省エネルギーの推進
- ②廃棄物の3R(減らす、再使用、再資源化)の推進
- ③安全性・快適性の推進
- ④環境広報活動の推進

## 発行元

地域医療支援病院  
救急告示病院  
臨床研修指定病院

医療法人財団 康生会 武田病院  
京都市下京区塩小路通西洞院東入  
東塩小路町841-5  
TEL 075-361-1351(代)

## 康生会武田病院

# 脳卒中センター開設 -24時間365日体制で救急患者対応-

## 毎年25万人の脳卒中患者

脳卒中の患者数は現在約133万9千人(平成20年厚労省患者調査概況)で、高齢化や生活習慣病などからピーク時の2020年には、288万人に上ると推測されています。死因では心臓病に次いで第3位ですが、社会復帰を果たせない人は3割以上に上り、職場に戻れた人でも片マヒや言語・視覚障害などの後遺症に悩み、QOL(日常生活)の維持に苦しんでおられるのが実情です。

脳血管疾患の発症に対しては、早期発見はもとより迅速かつ的確な治療とリハビリテーションが大切で、専門医やリハビリスタッフが常置する医療施設が必要とされています。とりわけ、オフィス街や商業の中心地で、観光客が集中するJR京都駅周辺では脳血管疾患で救急搬送される患者さんも多く、24時間365日対応ができる「脳卒中センター」の開設が期待されていました。

## 康生会武田病院「脳卒中センター」4月から開設

4月1日より康生会武田病院に「脳卒中センター」を開設しました。厚生労働省の定めるSCU(stroke care unit 脳卒中集中治療室)は面積も広く、収容数としては全国トップクラスの6床を保有。治療スタッフは、常勤医師5名(脳神経外科専門医3名)と非常勤医師4名のほか、SCUの施設基準に対応した専従の看護師や超急性期リハビリ対応の理学療法士が常駐し、24時間365日体制で脳卒中治療に当たっています。

急性期の脳血管疾患(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など)を中心として、脳動静脈奇形、外傷性脳障害、脳腫瘍、三叉神経痛、片側顔面けいれんといった治療にもあたります。また、急性期脳梗塞に対するt-PA治療(経静脈血栓溶解療法)並びに血管内治療による血栓回収治療においても、実施可能な施設として認定されています。





## 充実した設備と最新機器



高精度な画像解析が可能となった80列CTscan(東芝製)のほか、京都では初めてのマルチレイアウト大型モニター付の脳血管造影装置(ドイツ・シーメンス社製)を導入するなど最先端高性能の医療機器を完備。診断面では、非・低侵襲のMRI、MRA、DSA、経頭蓋骨パワードップラーの血管エコー検査などによる術前後、術中モニターによる評価が可能となっています。



さらに、蛍光血管撮影が可能な手術用顕微鏡や超音波吸引手術装置(CUSA)、術中超音波システム、電気生理学的モニターの導入により、安全性の高い低侵襲治療を実施しています。

## 全ての脳血管疾患に対応

### くも膜下出血

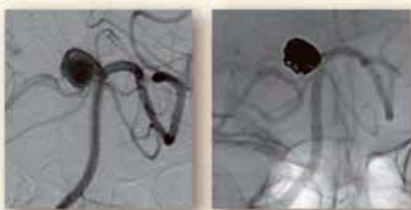
くも膜下出血は脳動脈の一部が膨らんでできる脳動脈瘤や、生まれつき脳に異常のある血管奇形などが原因ですが、原因の8割は脳動脈瘤の破裂とされています。くも膜下出血発症の3分の2の患者さんは死亡されるか、重い後遺症が残ってしまいます。

くも膜下出血の原因が脳動脈瘤の場合、再破裂を予防するために、できるだけ迅速に治療を開始することが重要です。患者さんの病状、脳動脈瘤の大きさ、場所、血腫の有無などを見ながら、当センターではカテーテルを用いた脳血管内治療と開頭クリッピング術を適宜選択しています。

### 未破裂脳動脈瘤

最近の研究により、未破裂脳動脈瘤の破裂率は、大きさ、場所、形状などで予測できるようになってきました。治療の際には血管内治療、開頭クリッピング術のどちらが適しているか、個々の動脈瘤ごとに十分検討して実施しております。

#### 症例1 脳動脈瘤



治療前

コイル  
塞栓術後

#### 症例2 脳動脈瘤

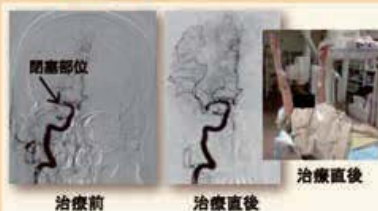


治療前

コイル留置中

コイル留置後

### 脳梗塞



治療前

治療直後

#### 症例 急性期脳梗塞

右中大脳動脈閉塞症血栓吸引用カテーテル(Penumbraシステム)による血栓吸引治療を行い30分にて閉塞血管の再開通を確認。重度の左手足の運動麻痺は直ちに改善した。その他の症状も翌日にはすべて改善した。

脳梗塞の超急性期治療は当院が最も力を入れている領域です。脳梗塞の超急性期では、直ちに血栓溶解治療(tPA静注療法)を行います。しかし、内頸動脈閉塞や中大脳動脈閉塞はtPA静注療法による再開通率が非常に低いため、tPA静注療法で再開通しない場合は直ちにカテーテル治療に移ります。血栓回収(Merciレトリバー)や血栓吸引(Penumbraシステム)による再開通治療は全国屈指の成績を誇っています。

当院では、血管内治療専門医が24時間院内待機しており、直ちに施行できる体制を取っています。



## 専門医が最先端カテーテル治療

カテーテルによる脳血管内治療は当センターが最も得意とする分野です。詰まった血栓などを取り除く手技は、常勤指導医2名、専門医1名、非常勤専門医4名が対応します。

24時間365日対応のため、専門医などスタッフの常駐は当然ですが、いついかなる時にでもカテーテル手術を行えるように最新高性能のカテーテルやコイル、ステントなどを多数常備しているのもグループ病院の利点です。

### 症例

頸動脈狭窄症に対するステント併用血管拡張術

狭窄



治療前

治療後

網目状のステントが見える

## 丁寧なインフォームドコンセント



治療に際しては、患者さん・家族の方々にしっかり理解していただけるよう、疾患の原因、手術と手術以外の治療法、合併症、治療後の早期リハビリと在宅での取り組みなど、丁寧なインフォームドコンセントを重視しています。

未破裂動脈瘤など手術移行への判断について、瘤の大きさや形状、発症の部位、家族歴、複数の瘤が見られる場合や既往歴など、きっちりと判断ができるのも当センターの優位性です。

## 京都大学附属病院や十条武田リハビリテーション病院など密な連携



滝センター長と石井部長が学んだ京都大学医学部脳神経外科教室とは綿密に連携しています。国内の脳神経外科分野をリードする宮本享教授を筆頭に、治療技術に関する研鑽や情報共有、医師の派遣などを継続しており、開業医の先生方からのご紹介や患者さん・家族の皆さんには安心していただいています。

同センターでの集中治療後は、十条武田リハビリテーション病院で、京都では最大級の回復期リハビリテーション病棟(99床)での早期リハビリをはじめ、理学療法士(34名)、作業療法士(21名)、言語聴覚士(6名)の計61名による専門的なリハビリを行え得るなど、在宅復帰に向けた継ぎ目のない医療・介護サービスの提供できる点も当グループの強みです。

特に十条武田リハビリテーション病院の脳神経外科医師は当センターから派遣医で、リハビリへの移行や進行状態など、情報を共有しながらベストのリハビリ内容を選択しています。治療からリハビリまで一貫して取り組めるのと同様に再発予防も大切で、患者さんが在宅に戻られても、グループ機能がカバーし合っていけるのも優位性の一つです。

## ひとこと

三重大学脳神経外科教授時代には日本脳神経血管内治療学会理事長でしたが、現在は相談役を務めており、最新治療の研究や最前線での治療を行うことを日ごろから心掛けています。座右の銘は、絶えず進展する医療の在り方を追求する意味もあって「創造と挑戦」です。

滝 和郎 脳卒中センター長

当施設の最大の特徴は、早期の治療が必要な脳卒中に対して、24時間365日素早く対応できる体制が整っていることです。最先端の手術室や脳血管撮影装置を完備しているのはもちろんですが、治療にあたる医師はこれまで私が京都大学で直接訓練・指導した医師ばかりです。脳卒中の治療に重要なチームワークは我々の最大の誇りです。

脳卒中の急性期治療、脳卒中の予防治療は武田病院脳卒中センターにお任せ下さい。

石井 暁 部長



<取材にご協力いただいた先生方>

脳卒中センター  
滝和郎 センター長

<プロフィール>

1974年 京都大学医学部卒  
1981年 京都大学医学部脳神経外科助手  
1987年 国立循環器病センター脳血管障害研究室室長  
1989年 京都大学医学部脳神経外科講師  
1997年 京都大学脳神経外科助教授  
1998年 三重大学脳神経外科教授  
2011年 三重大学理事・副学長  
2006年-2012年 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会 理事長  
2010年-2013年 日本脳卒中学会理事  
2013年- 同幹事



石井 暁 部長

<プロフィール>

1996年 京都大学医学部卒  
1997年 倉敷中央病院脳神経外科 医員  
2000年 京都大学大学院医学研究科 博士課程  
2004年 カリフォルニア大学ロサンゼルス校  
放射線科血管内治療部  
2006年 神戸市立医療センター中央市民病院脳神経外科 副医長  
2008年 京都大学医学部脳神経外科 助教  
2013年 康生会武田病院および  
京都大学医学部脳神経外科 非常勤講師



脳神経外科						
	月	火	水	木	金	土
午前	石井 暁 部長★	荻野 英治 医長★	千原 英夫★	千原 英夫★	滝和郎 センター長★	西原 毅 部長☆ (宇治武田)
午前						石井 暁 部長★/ 荻野 英治 医長★
午後						西原 毅 部長☆ (宇治武田)

受付時間

午前診 8:00～12:30  
午後診 13:00～16:00

※一部受付終了時間の異なる科目もあります。  
詳しくはお問い合わせください。  
※急患は24時間受付しています。

予約外来

当院では待ち時間短縮のため、下記の印(★・☆)の科目については予約制を導入しています。

★…初診・予約のない再診・急患の方も受付けています。  
☆…予約された方だけの診療となっています。

地域医療  
連携室より

武田病院地域医療連携室では、脳卒中センターの開設に伴い、センター長や院長と共に、地域の医療機関へご挨拶にお伺いさせて頂いております。

脳卒中センターは救急隊や地域の医療機関からの信頼を得て、搬送・紹介をして貰える病院となる事、回復期転院や医療・療養転院といった後遺症改善や状態改善の為の積極的な転院調整を推進する事、在宅復帰に向けた、行政や地域介護事業者との連携を強化する事といった地域との密な連携こそが、患者さんや家族の為に、また地域医療の為に重要と考えられています。地域医療連携室としても微力ながらも、この脳卒中センターの助力となれるように、これまで以上に勤めてまいります。

**前方連携の強化**  
・救急を病床理由で断る事をしない  
・地域の医療機関からの紹介をスムーズに受け入れ出来るようにする

**後方連携の推進**  
・回復期リハビリ病院への転院推進(医療・療養の転院調整も強化していく)  
・在宅復帰に向けて介護事業者との連携強化  
・福祉事務所や行政関係各所との連携強化

医療法人財団 康生会 武田病院

【連絡先】地域医療連携室

TEL 075(361)1352(直)/ FAX 075(361)1337  
(E-mail) renkei-e@takedahp.or.jp  
(URL) http://www.takedahp.or.jp/

◆検査予約センター◆

TEL 075(351)1132(直)/ FAX 075(361)1337